

大学教育学会 第41回大会(玉川大学)  
部会8 高大連携・高大接続①

# 入学者選抜の違いが 入学後の学修におよぼす効果の検討

—大学生調査における推薦・AO入試と一般入試の相違に注目して—

2019年6月1日(土)

○木村治生(ベネッセ教育総合研究所)  
原田 章(追手門学院大学)

## ● 推薦・AO入試の増加

★ 入学者の44.3%が推薦入試か  
AO入試→20年間で1.7倍

- 推薦入試: 1996年26.4%→2017年35.2%=約20年で9ポイント増加
- AO入試: 1996年 0.0%→2017年9.1%=同上

(文部科学省「国公立大学入学者選抜実施状況」)

## ● 今後も増加の見通し

★ 入試改革→学力の3要素を多面的・総合的に評価する必要

- 各大学がアドミッション・ポリシーに基づいて多様な資質・能力を評価
- 国立大学協会は現在約15%の推薦・AO入試を30%に引き上げる目標

(国立大学協会「2020年度以降の国立大学の入学者選抜制度－国立大学協会の基本方針－」2017年11月)

## ● 現在の入学者選抜の成果と課題を明らかにする必要

★ 一般入試、推薦・AO入試の双方に課題が指摘されるが、本当か？

- 多くの大学では知識の暗記・再生や暗記した解法パターンの単なる適用の評価に偏る
- 一部の推薦・AO入試では「学力不問」と揶揄される状況が生じている

(高大接続システム改革会議「最終報告」2016年3月31日)

- 大学の入試偏差値により入学者選抜の違いによる効果は異なる。
- 偏差値高群のAO入試の効果は高いが、入学後に課題が見られる。

## ● 大学入学者選抜と「学力」の関連についての研究

推薦入試・AO入試による入学者の学力が、一般入試の入学者の学力に「劣る」という研究がある一方で、「大きくは変わらない」という研究も。

### ★推薦入試・AO入試 < 一般入試

- ・甲斐(2007)→東京工芸大学工学部(5教科学力)
- ・柴ほか(2015)→高知大学教育学部(センター入試得点、ただし推薦入学のほうが教員採用率が高い)

### ★推薦入試・AO入試 ≒ 一般入試

- ・横山(2016)→千葉科学大学(英語能力)
- ・池田(2009)→北海道大学(GPA)
- ・赤木ほか(2011)→名古屋学院大学健康学部(GPA、指定校推薦の成績が良い)

## ● 大学入学者選抜と「諸能力・意欲」の関連についての研究

推薦入試・AO入試による入学者の諸能力や意欲が、一般入試の入学者のそれよりも「高い」という研究がある一方で、「大きくは変わらない」という研究も。

### ★推薦入試・AO入試 > 一般入試

- ・宮下(2003)→立命館大学(主体性、進路意識)
- ・中室ほか(2014)→慶應義塾大学SFC(リーダーシップ、課題意識、目標)
- ・木村(2018)→追手門学院大学(進路意識、協調的問題解決力、ただし、1-2年次の基礎学力は低い)

### ★推薦入試・AO入試 ≒ 一般入試

- ・西丸(2014)→X大学Y学部(能力向上感)

## ● 複数の大学・学部を含むデータを用いて検証する必要がある

## ●ベネッセ教育総合研究所「第3回大学生の学習・生活実態調査」

### ★調査対象

大学1～4年生（18～24歳、日本在住）、4948名

	性別			入試難易度								合計			
				高群（偏差値55以上）				低群（偏差値55未満）							
	男子	女子	合計	入試方法			合計	入試方法			合計	入試方法			合計
				一般	推薦	AO		一般	推薦	AO		一般	推薦	AO	
1年	670	567	1237	505	151	19	675	275	140	35	450	780	291	54	1125
2年	670	567	1237	490	149	21	660	263	132	49	444	753	281	70	1104
3年	670	567	1237	500	144	20	664	252	127	43	422	752	271	63	1086
4年	670	567	1237	515	151	21	687	243	136	31	410	758	287	52	1097
合計	2680	2268	4948	2010	595	81	2686	1033	535	158	1726	3043	1130	239	4412

※調査会社の約420万人のモニター母集団のうち、「大学生」として登録されている約15万人に対して予備調査を実施。このうち、大学1～4年生にアンケートの協力を依頼。文部科学省『平成28年度学校基本調査』の男女比に近いサンプル構成になるように回収。

### ★調査時期

2016年11～12月

### ★調査方法

インターネット調査

### ★調査項目

高校での学習／大学選択で重視した点／入学時の期待／大学生活で力を入れたこと／大学生活の過ごし方／履修科目数／評価／教職員との交流／保護者との関係／友だち関係／大学教育観／学びの機会／学びに対する姿勢・態度／大学生活で身についたこと／海外留学の意向／進路意識／建学の精神やポリシーの認知／大学生生活の満足度／学びの充実／成長実感／社会観・就労観／投票行動 など

→ ※入学難易度について「わからない」と回答したサンプルを除外。

※センター入試利用は一般入試に含めた。

## ①入学難易度、性別による違い

★それぞれの選抜方法は、どのように行われているのか

- 1)大学の入学難易度(入試偏差値)
- 2)入学者の性別

## ②入学時点の特性の違い

★それぞれの選抜方法は、どのような高校生を入学させているのか

- 1)高校時代の学習時間
- 2)高校時代に力を入れたこと、高校時代の学習態度
- 3)大学志望度

## ③入学後の特性の違い

★それぞれの選抜方法で入学した学生は、どのように学修しているのか

- 1)大学での学修時間
- 2)大学での学修態度、学修に関する意識・行動
- 3)入学後の大学満足度、学びの充実、成長実感、身についた資質・能力

## ④考察

●図表1:入学者選抜の方法(入試偏差値別)

		入試偏差値						
		65以上	55~64	45~54	44以下			
入 試 方 法	一般入試	63.6	>	59.5	>	47.4	>	32.9
	推薦入試	31.5	<	36.6	<	42.5	<	47.9
	AO入試	5.0		4.0	<	10.1	<	19.2
合計		100.0		100.0		100.0		100.0

p.&lt;0.001 (カイ二乗検定)

●図表2:入学者選抜の方法(性別)

		性別		
		男子	女子	
入 試 方 法	一般入試	54.4	>	48.5
	推薦入試	37.0	<	42.8
	AO入試	8.6		8.7
合計		100.0		100.0

p.&lt;0.001 (カイ二乗検定)

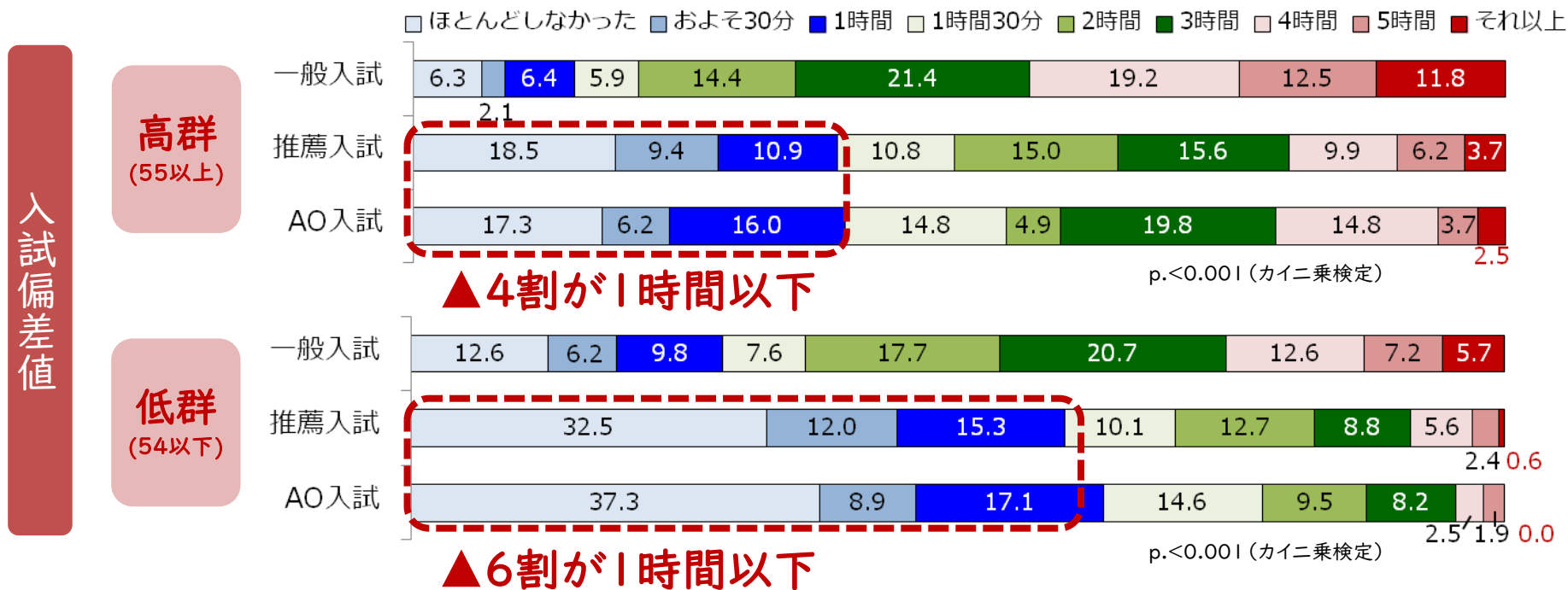
\*「入試偏差値」は本人の自己申告による。

\*文部科学省「平成28年度国公立大学入学者選抜実施状況」による設置者(国公私)と入試方法の実数に基づき、サンプルの補正を行った。

- 入試偏差値が高い大学ほど「一般入試」による入学者が多く、低い大学ほど「推薦入試」「AO入試」が多い。
- 男子は「一般入試」による入学者が多く、女子は「推薦入試」「AO入試」が多い。

●図表3: 高校時代の学習時間(入試偏差値別・選抜方法別)

Q: 高校3年生の9月の初め頃、平日に学校の授業以外で、1日平均で何時間くらい勉強していましたか。



●図表4: 高校時代の学習時間(平均値)(入試偏差値別・選抜方法別)

		入学者選抜			F値 ***p.<0.001	多重比較 (HSD)
		一般	推薦	AO		
入試 偏差値	高群	2.29時間	1.81時間	1.81時間	112.1***	一般>推薦、AO
	低群	1.97時間	1.49時間	1.41時間	107.1***	一般>推薦、AO

\*\*\*p.<0.001

●推薦入試・AO入試の  
入学者は、高校時代の  
学習時間が短い

●図表5: 高校時代に力を入れていたこと(平均値)(入試偏差値別・選抜方法別)

	入試偏差値									
	高群					低群				
	入学者選抜			F値	多重比較 (HSD)	入学者選抜			F値	多重比較 (HSD)
	一般	推薦	AO			一般	推薦	AO		
受験勉強	3.36	2.79	3.00	118.47***	一般>AO、推薦	2.95	2.43	2.32	79.39***	一般>推薦、AO
学校での学習	3.01	3.07	3.06	1.34		2.81	2.69	2.47	13.22***	一般>推薦>AO
興味をもった学習	2.53	2.59	3.09	16.47***	AO>推薦、一般	2.50	2.54	2.53	0.41	
学級委員・生徒会	1.88	2.09	2.21	15.156***	AO、推薦>一般	1.89	1.88	1.93	0.18	
部活動	2.87	2.97	3.15	4.23*		2.72	2.82	2.77	1.43	
文化祭・学園祭	2.63	2.69	2.94	4.20*	AO>推薦、一般	2.51	2.46	2.45	0.55	
試合・コンクール練習	2.61	2.67	2.86	2.64		2.42	2.40	2.42	0.08	
地域のお祭り・イベント	1.79	2.00	2.19	20.19***	AO、推薦>一般	1.85	1.89	2.01	2.43	
アルバイト	1.56	1.98	2.01	44.96***	AO、推薦>一般	1.71	2.15	2.39	47.61***	AO>推薦>一般
ボランティア	1.55	1.78	2.09	29.81***	AO>推薦>一般	1.65	1.77	1.82	4.73**	推薦>AO、一般
読書	2.35	2.34	2.62	3.27*	AO>推薦、一般	2.22	2.18	2.23	0.34	

\*「とても力を入れた」4点～「まったく力を入れなかった」1点とし、平均値を算出

\*\*\*p.<0.001 \*\*p.<0.01

- 入試偏差値高群では、推薦入試やAO入試の入学者は、数値が高い項目が多く、多様な体験をしていることがわかる。
- 入試偏差値低群では、そのような関連はあまりみられない。



● 図表6: 高校時代の学習態度(平均値)(入試偏差値別・選抜方法別)

		入試偏差値									
		高群					低群				
		一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)	一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)
高校時代の学習態度	授業に真面目に出席した	3.52	3.66	3.59	9.11***	推薦>一般	3.48	3.54	3.36	4.14*	推薦>AO
	授業の予習や復習をした	2.74	2.76	2.78	0.14		2.56	2.44	2.32	6.47**	一般>推薦、AO
	授業で出された宿題や課題はきちんとやった	3.23	3.43	3.37	13.95***	推薦>一般	3.11	3.30	3.10	10.33***	推薦>一般、AO
	授業についていけないと感じた	2.08	2.04	2.27	2.59		2.43	2.14	2.36	19.55***	一般、AO>推薦
	授業に関心・興味をもてなかった	2.42	2.43	2.36	0.26		2.61	2.48	2.63	4.63*	一般>推薦
	グループワークやディスカッションに積極的に参加した	2.29	2.45	2.64	13.51***	AO>推薦>一般	2.23	2.28	2.44	3.76*	AO>一般
	計画を立てて学習した	2.47	2.59	2.62	4.25*	推薦>一般	2.21	2.26	2.22	0.58	
	興味をもったことについて自主的に学習した	2.62	2.72	2.86	4.81**	AO>一般	2.54	2.54	2.51	0.11	
	進路や将来について積極的に考えた	2.91	3.01	3.20	6.50**	AO、推薦>一般	2.70	2.80	2.82	3.23*	推薦>一般
高校時代の学び方	自分で問いを立てる	1.92	1.91	2.09	2.42+	AO>一般、推薦	1.76	1.74	1.72	0.27	
	課題を解決するための情報を集める	2.21	2.25	2.36	2.46+		2.07	2.04	1.99	1.11	
	課題を解決するための方法を考える	2.26	2.27	2.36	0.84		2.08	2.09	2.00	1.07	
	学校外の人に話を聞きに行く	1.54	1.60	1.83	6.57**	AO>推薦、一般	1.51	1.56	1.50	0.95	
	グループで話し合う	1.72	1.83	2.12	17.06***	AO>推薦>一般	1.69	1.80	1.69	4.47*	推薦>一般
	学習の成果を人前で発表する	1.62	1.71	1.99	12.96***	AO>推薦>一般	1.54	1.65	1.60	4.82**	推薦>一般
	外国語(英語など)を読む・書く	2.15	2.04	2.04	5.26**	一般>推薦	1.90	1.78	1.63	12.06***	一般>推薦>AO
	外国語(英語など)を聞く・話す	1.95	1.95	2.06	0.85		1.80	1.71	1.63	5.09**	一般>推薦、AO

\*高校時代の学習態度については「とてもあてはまる」4点～「まったくあてはまらない」1点とし、平均値を算出

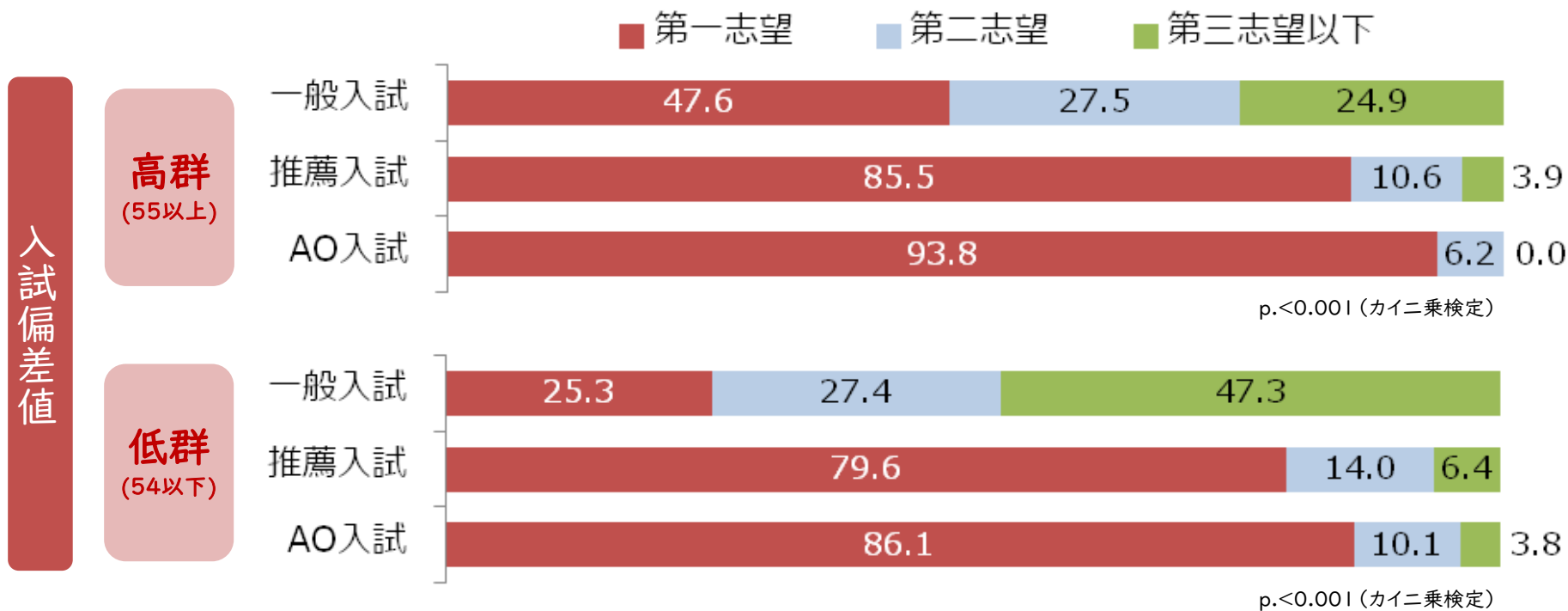
\*\*\*p.<0.001 \*\*p.<0.01

\*高校時代の学び方については「よくあった」3点～「ほとんどなかった」1点とし、平均値を算出

\*p.<0.05 +p.<0.1

● 入試偏差値高群には、推薦入試やAO入試の入学者に主体的・能動的な学習態度が表れているが、低群には見られない。

●図表7:大学志望度(入試偏差値別・選抜方法別)



- 推薦入試やAO入試で「第一志望」の比率が高い。入試偏差値低群でも8~9割が第一志望で入学している。

●図表8:学修時間(入試偏差値別・選抜方法別)

			入学者選抜			F値	多重比較 (HSD)
			一般	推薦	AO		
入 試 偏 差 値	高群	大学授業	1.75	1.77	1.76	0.036	
		授業の予復習	0.42	0.39	0.49	1.206	
		自主的な学習	0.37	0.29	0.47	4.371*	AO、一般>推薦
		教養の読書	0.23	0.21	0.17	1.145	
	低群	大学授業	1.78	1.70	1.70	0.816	
		授業の予復習	0.37	0.33	0.30	1.835	
		自主的な学習	0.32	0.29	0.25	1.185	
		教養の読書	0.19	0.17	0.15	0.657	

\*p.&lt;0.05

\*調査では1週間当たりの時間を回答。「0時間」は0、「1時間未満」は0.5、「1~2時間」は1.5のように換算したのち、7(日)で割って、1日あたりの時間として算出した。

- 学修時間は、選抜方法による差はほとんど見られない。
- 唯一、入試偏差値高群で「自主的な学習」について、AO入試と一般入試が、推薦入試よりも長い傾向が見られた。

●図表9:大学での学修態度(入試偏差値別・選抜方法別)

	入試偏差値									
	高群(偏差値55以上)					低群(偏差値55未満)				
	一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)	一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)
履修した科目は途中で投げ出さない	3.27	3.35	3.46	4.153*	推薦>一般	3.32	3.24	3.03	8.666***	一般、推薦>AO
授業で出された宿題や課題はきちんとやる	3.26	3.37	3.47	7.058**	AO、推薦>一般	3.29	3.29	3.15	2.657+	一般、推薦>AO
できるかぎり良い成績をとろうとする	3.08	3.14	3.36	5.082**	AO>推薦、一般	3.14	3.09	2.99	2.228	
グループワークやディスカッションで自分の意見を言う	2.69	2.65	2.94	4.128*	AO>一般、推薦	2.67	2.63	2.61	0.690	
グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する	2.83	2.78	2.99	2.663*	AO>推薦	2.76	2.77	2.71	0.352	
計画を立てて学習する	2.53	2.64	2.84	7.751***	AO、推薦>一般	2.44	2.47	2.47	0.205	
自分の意思で継続的に学習する	2.70	2.72	2.91	2.476+	AO>一般	2.65	2.63	2.61	0.142	
授業に興味をもったことについて自主的に学習する	2.71	2.68	2.93	2.902+	AO>一般、推薦	2.67	2.67	2.65	0.054	
授業とは関係なく、興味をもったことについて自主的に学習する	2.70	2.66	3.00	5.243**	AO>一般、推薦	2.70	2.68	2.57	1.359	
授業でわからなかったことは、自分で調べる	2.87	2.87	3.01	1.158		2.80	2.72	2.58	5.621**	一般>AO
授業の予習をする	2.26	2.26	2.68	9.109***	AO>一般、推薦	2.22	2.19	2.16	0.473	
授業の復習をする	2.46	2.45	2.80	6.682**	AO>一般、推薦	2.39	2.37	2.37	0.164	
授業でわからなかったことは先生に質問する	2.28	2.31	2.65	6.485**	AO>推薦、一般	2.27	2.37	2.35	2.498+	推薦>一般

\*「とてもあてはまる」4点～「まったくあてはまらない」1点とし、平均値を算出

\*\*\*p.<0.001 \*\*p.<0.01 \*p.<0.05 +p.<0.1

●主体的・能動的な学修態度に関する数値がAO入試の学生に高い傾向は、入試偏差値高群には見られるが、低群には見られない。

●図表10:学修に関する意識・行動(入試偏差値別・選抜方法別)

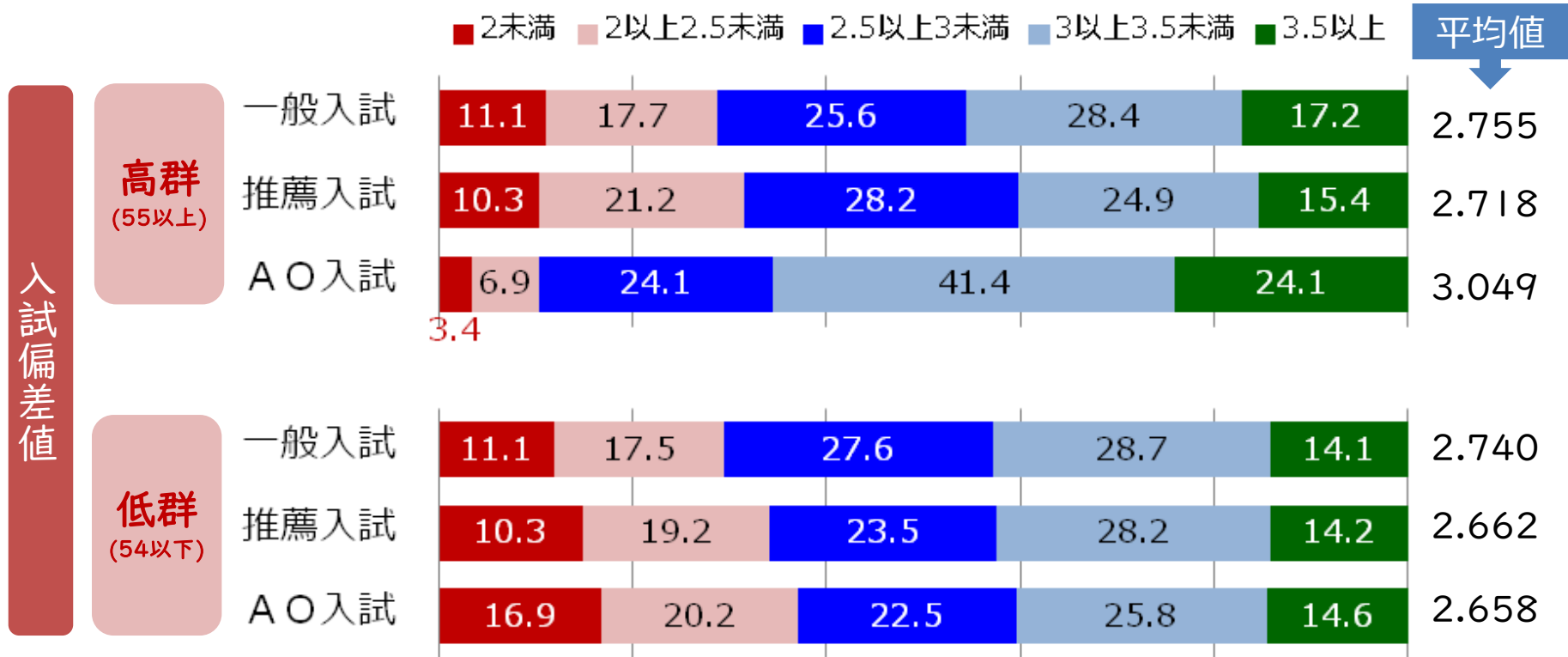
	入試偏差値									
	高群(偏差値55以上)					低群(偏差値55未満)				
	一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)	一般	推薦	AO	F値	多重比較(HSD)
授業では、たとえ難しくても、好奇心をくすぐるようなことを学習したい	2.99	2.92	3.12	3.435*	AO>推薦	2.95	2.90	2.80	2.959+	一般>AO
学習をするときは、授業の内容を何度も繰り返して覚えるようにしている	2.67	2.76	2.90	6.294**	AO、推薦>一般	2.61	2.66	2.59	0.768	
1つの授業で学んだことを、できるだけ他の授業に関連付けようと心がけている	2.71	2.74	2.88	1.603		2.64	2.64	2.58	0.418	
学習をするときは、教科書やノートを見返して重要な概念の概略(図や表)を描くようにしている	2.60	2.61	2.78	1.686		2.55	2.55	2.57	0.048	
理論、解釈や結論が提示されたとき、エビデンス(証拠・論拠)があるかどうか確認している	2.51	2.46	2.70	3.015*	AO>推薦	2.43	2.37	2.34	1.285	
授業の内容を理解することが難しいときは、学習する方法を変えている	2.53	2.59	2.74	3.625*	AO>一般	2.47	2.51	2.42	0.749	
授業で示された内容が難しくても、自分には理解できるという自信がある	2.45	2.41	2.70	4.241*	AO>一般、推薦	2.37	2.32	2.39	0.645	
授業の課題を少しでも良いものに仕上げようと努力している	2.78	2.81	2.90	1.207		2.76	2.72	2.75	0.559	
授業で学ばなければならないことがらの意味を自分で理解しようとしている	2.74	2.72	2.93	2.373+	AO>一般、推薦	2.66	2.64	2.59	0.508	
授業で新しい概念を理解しようとするときにはよく、それを実際の状況や日常の出来事に置き換えて考えている	2.63	2.68	2.73	1.435		2.57	2.57	2.50	0.449	
授業では、ものごとの背後にある理由や理屈を理解するようにしている	2.73	2.73	2.80	0.275		2.58	2.60	2.54	0.322	
授業の課題を上げるために他の学生と協働するようにしている	2.65	2.73	2.96	6.438**	AO>一般、推薦	2.59	2.61	2.59	0.037	

\*「とてもあてはまる」4点～「まったくあてはまらない」1点とし、平均値を算出

\*\*\*p.<0.001 \*\*p.<0.01 \*p.<0.05 +p.<0.1

●学修に関する積極的な意識や行動についても、入試偏差値高群のAO入試の数値が高い傾向が見られる。

●図表11:GPA(入試偏差値別・選抜方法別)

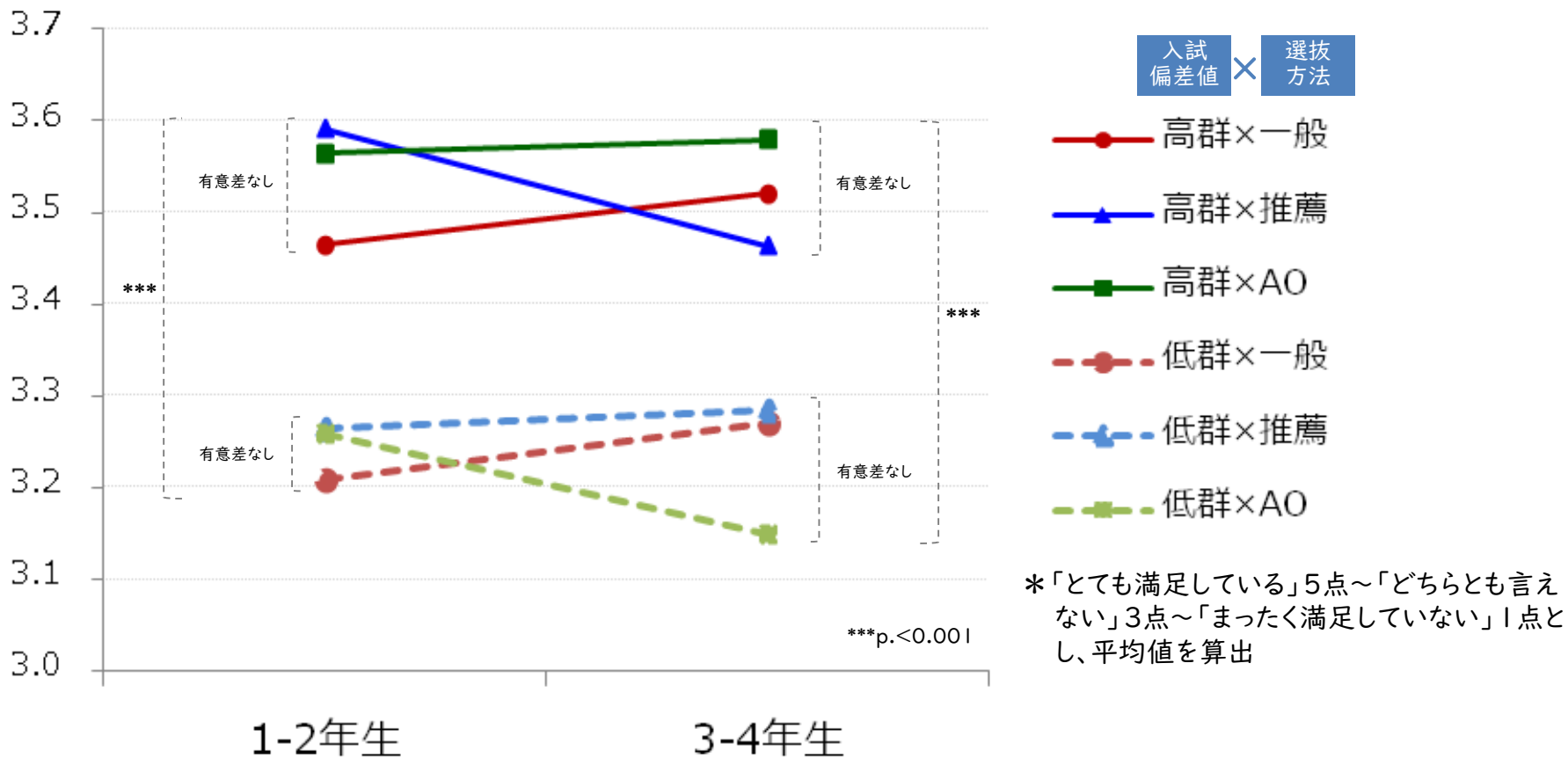


●入試偏差値高群のAO入試の学生は、GPAが高い傾向が見られる。

\*ただし、GPAを回答している偏差値高群・AO入試のサンプルが28名であるため、統計的には有意ではない。  
\*また、GPAは大学によって基準が異なるため、参考値として表示した。

●図表12: 大学満足度(入試偏差値×選抜方法別)

Q: 現在通っている大学について、どのくらい満足していますか: 大学生活を総合的に判断して

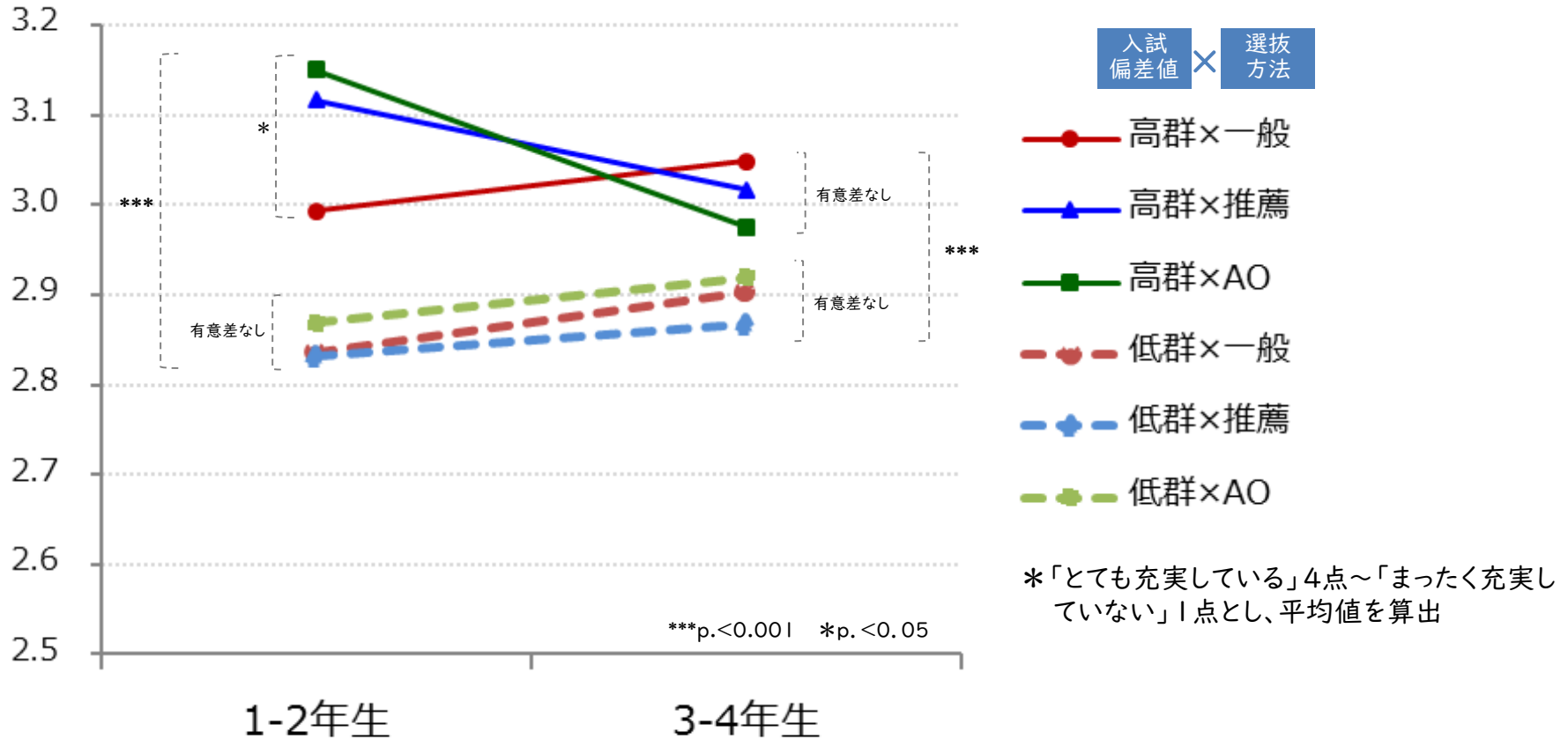


\*「とても満足している」5点～「どちらとも言えない」3点～「まったく満足していない」1点とし、平均値を算出

● 選抜方法による差は有意ではないが、入試偏差値による差は有意  
→ 大学満足度は、入試偏差値によって規定

●図表13: 学びの充実(入試偏差値×選抜方法別)

Q: 大学での学びの充実度について、あてはまるものを選んでください: 大学生生活全体

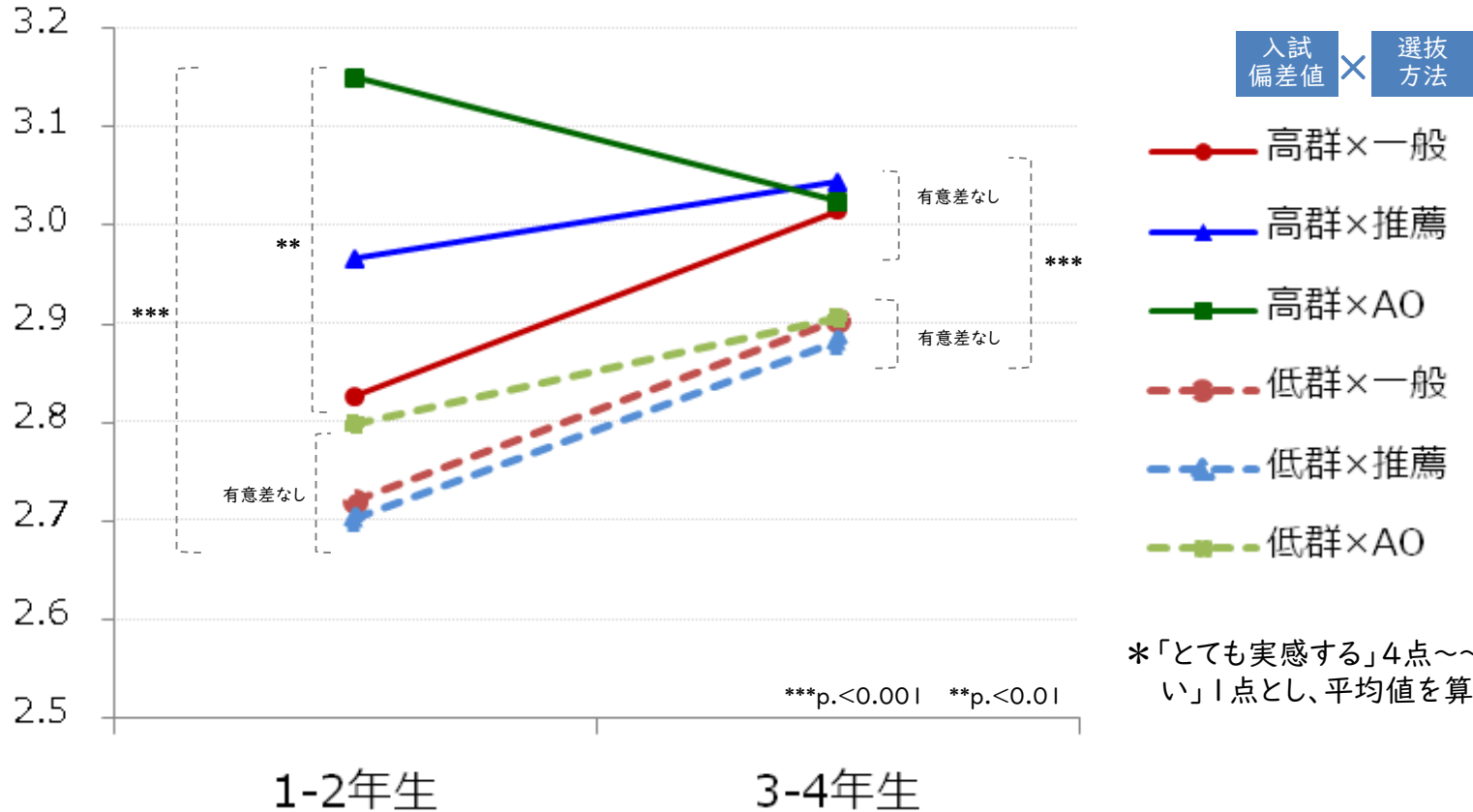


- 偏差値高群は、1-2年生ではAO入試の数値が有意に高いが、3-4年生では差がなくなる。(高群・AO入試の数値が低下)
- 低群は選抜方法による違いが見られない。



● 図表14: 成長実感(入試偏差値×選抜方法別)

Q: 大学での成長実感について、あてはまるものを選んでください: 大学生生活全体

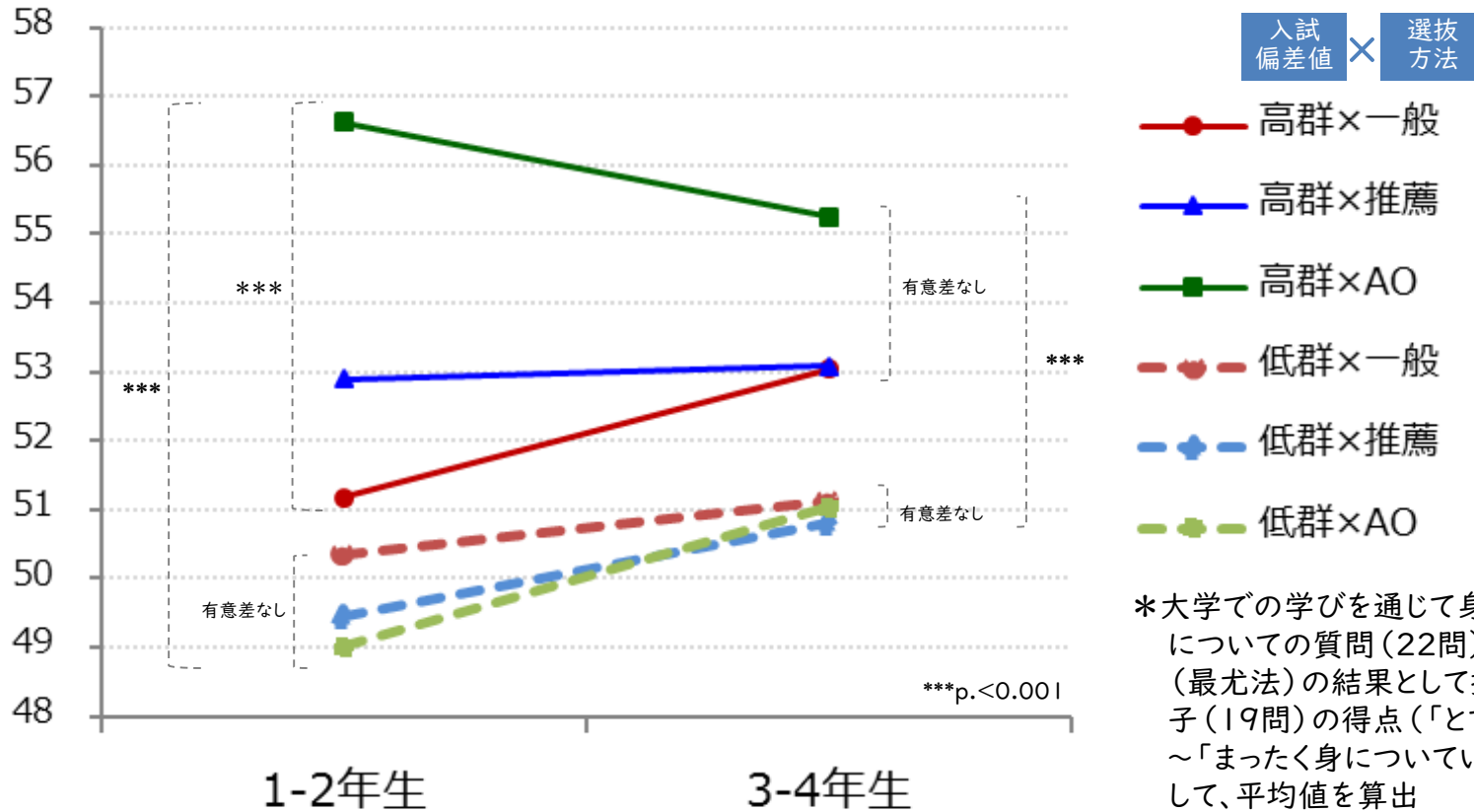


\*「とても実感する」4点～「まったく実感しない」1点とし、平均値を算出

● 「学びの充実度」と同様の動き。

● 図表15: 身についた資質・能力 (入試偏差値×選抜方法別)

● どのような力が身についたと思うかについての質問を因子分析し、第一因子の得点を合計



\*大学での学びを通じて身についたと思う力についての質問(22問)のうち、因子分析(最尤法)の結果として抽出された第一因子(19問)の得点(「とても身についた」4点~「まったく身につけていない」1点)を合計して、平均値を算出

● 「学びの充実度」「成長実感」と同様の動き。

● 高群のAO入試のみ、学びや成長に対する評価が3-4年生で落ちる傾向が見られる。

## 1. 入試偏差値の高低を問わず、推薦・AO入試は次のような学生を選抜する効果を持つ。

- 高校時代(高3の9月時点)の学習時間が短い。
- 大学に「第一志望」で入学してくる学生が多い。

→ 推薦・AO入試は、大学と学生をマッチングするうえで効果的。【マッチング効果】

## 2. 入試偏差値の高低により、推薦・AO入試で選抜した学生の学習に対する意識・行動が大きく異なる。(=選抜の効果が異なる)

- 高群は、高校生のとくに学習以外の多様な体験をしている。
- 高群は、高校時代に主体的・能動的な態度で学習を行っている。

→ 高群は多様な資質・能力を持つ学生の選抜に成功。【多様な資質・能力選抜効果】

## 3. 入学後の学修意識や行動は、高群のAO入試の結果が良好。

- 自主的な学習の時間が長い。
- 主体的・能動的な学習態度が顕著。学習についての意識・行動も積極的。

→ 高群のAO入試の学生は、入学後も積極的に学習に取り組む。【主体的学修促進効果】

## 4. 高群のAO入試の学生は、学びの充実・成長実感が低下。

- 1-2年生では高い成長実感を持っているが、3-4年生で低下する。

→ 高群・AO入学者のニーズに大学が応えられているか懸念。【成長実感低減効果】

## 1. 各変数間の関連を詳細に検討する必要(分析の深化)

- 各変数間の関連についての構造的な説明→多変量解析など【補遺に掲載】
- 偏差値高群の学生の学びや成長に対する評価がなぜ3-4年で低下するののかの説明

## 2. 研究成果を個別の大学に活用する必要(実践への適用)

- 大規模データから得られる知見の大学への応用
- 効果ある実践している取り組みの評価、教育改善への適用

### 【参考文献】

- \*赤木充宏ほか、2011年「名古屋学院大学人間健康学部リハビリテーション学科における学業成績の調査入試区分の違いによる検討—」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇』第47巻第2号。
- \*池田文人、2009年「入試区分による入学後の学業成績の優劣の検証」『大学入試研究ジャーナル』第19号。
- \*甲斐雅裕、2007「工芸大工学部での新入生への学力調査—入試区分、学習時間との関係」『リメディアル教育研究』第2巻第1号。
- \*木村治生、2018年「アサーティブ生の1年間の成長—『大学生基礎力レポート』に基づく検証」『「学びと成長の可視化」からその先へ—アサーティブプログラム・アサーティブ入試の実証的研究で見てきたこと』追手門学院大学アサーティブ研究センター・ベネッセ教育総合研究所。
- \*柴英里ほか、2015年「入試区分別にみた教育学部制の傾向に関する一考察」『高知大学教育学部研究報告』第75号。
- \*中室牧子ほか、2014年「『AO入試』の再評価:慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)を事例に」『Keio SFC journal』第14巻第1号。
- \*西丸良一、2014年「大学生の学業成績・能力向上感と入試選抜方法の関連」『評論・社会科学』第111号、同志社大学。
- \*宮下明大、2003「AO選抜入学者にみる進路選択理由と自己効力感について」『立命館高等教育研究』第2号。
- \*横山悟、2016「入学試験区分による経時的データに基づいた大学初年次学生の英語力の分析」『千葉科学大学紀要』第9巻。

## 1. 分析のプロセス

- 高等教育の目的は、主体的な学修者の育成と考え、主体的な学修者かどうかをアウトプット指標とする。
- 「大学での学修態度」の質問は、以下の通り。
  - ①履修した科目は途中で投げ出さない
  - ②授業で出された宿題や課題はきちんとやる
  - ③できるかぎり良い成績をとろうとする
  - ④グループワークやディスカッションで自分の意見を言う
  - ⑤グループワークやディスカッションでは、異なる意見や立場に配慮する
  - ⑥計画を立てて学習する
  - ⑦自分の意思で継続的に学習する
  - ⑧授業で興味をもったことについて自主的に学習する
  - ⑨授業とは関係なく、興味をもったことについて自主的に学習する
  - ⑩授業でわからなかったことは、自分で調べる
  - ⑪授業の予習をする
  - ⑫授業の復習をする
  - ⑬授業でわからなかったことは先生に質問する
- 信頼性係数 (Cronbachの $\alpha$ 係数)は0.889と高いため、「とてもあてはまる」4点～「まったくあてはまらない」を1点として算出した合計得点を従属変数に設定する。

## 2. 記述統計量

●使用する変数の記述統計量は、以下の通り。

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
大学授業得点	4948	13	52	35.4196	7.31186
男子 (ダミー)	4948	0	1	0.54	0.498
一般入試 (ダミー)	4948	0	1	0.6461	0.47822
推薦入試 (ダミー)	4948	0	1	0.2530	0.43479
AO入試 (ダミー)	4948	0	1	0.0588	0.23530
高校学習時間	4948	0	6	2.4133	1.81198
高校学習態度	4948	8	24	14.9101	3.84664
有効なケースの数 (リストごと)	4948				

●高校学習時間は、高3・9月段階の1日の学習時間について、「しなかった」を0、「30分」を0.5…「5時間」を5、「それ以上」を6と置き換え。

●高校学習態度は、高校時代の学習の様子についてたずねた以下の項目の合計得点。「ほとんどなかった」1点～「よくあった」3点として算出。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ①自分で問いを立てる        | ⑤グループで話し合う       |
| ②課題を解決するための情報を集める | ⑥学習の成果を人前で発表する   |
| ③課題を解決するための方法を考える | ⑦外国語(英語など)を読む・書く |
| ④学校外の人に話を聞きに行く    | ⑧外国語(英語など)を聞く・話す |

●統制変数として、入試偏差値(高群/低群)、学年(1-2年/3-4年)を使用。

### 3. 重回帰分析：モデル1（線形回帰、強制投入法）

- 従属変数：大学での学修態度、独立変数：男子、一般入試、推薦入試、AO入試
- 統制変数：入試偏差値（高群/低群）×学年（1-2年/3-4年）

	高群1-2年		高群3-4年		低群1-2年		低群3-4年	
	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
男子（ダミー）	-0.078	**	0.012		0.044		-0.007	
一般入試（ダミー）	-0.037		-0.122	+	-0.078		0.025	
推薦入試（ダミー）	0.003		-0.128	*	-0.121		0.052	
AO入試（ダミー）	0.072	*	0.022		-0.079		-0.037	
調整済み R2 乗	0.013		0.005		0.002		0.000	

\*\*p.<0.01 \*p.<0.05 +p.<0.1

### 4. 重回帰分析：モデル2（線形回帰、強制投入法）

- 従属変数：大学での学修態度、独立変数：男子、一般入試、推薦入試、AO入試、高校時代の学習時間、高校時代の学習態度
- 統制変数：入試偏差値（高群/低群）×学年（1-2年/3-4年）

	高群1-2年		高群3-4年		低群1-2年		低群3-4年	
	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率	標準化係数	有意確率
男子（ダミー）	-0.061	*	0.009		0.047		0.019	
一般入試（ダミー）	-0.063		-0.062		-0.099		0.005	
推薦入試（ダミー）	-0.011		-0.057		-0.099		0.074	
AO入試（ダミー）	0.048		0.021		-0.024		-0.020	
高校学習時間	0.096	***	0.051	*	0.129	***	0.135	***
高校学習態度	0.412	***	0.436	***	0.413	***	0.434	***
調整済み R2 乗	0.201		0.203		0.209		0.232	

\*\*\*p.<0.001 \*\*p.<0.01

## 5. 結果の解釈

### ①モデル1について

- 高群1-2年では、「男子」がマイナスになり、「AO入試」がプラス。  
⇒男子であることが学修態度にマイナスになり、AO入試で入学したことがプラスになる。  
(ただし、決定係数は低く、説明力は弱い)
- その効果は3-4年になると消える。  
⇒AO入試の優れた特性が、学年とともに生かされなくなる。ただし、「一般入試」「推薦入試」にはマイナスの効果が表れており、相対的にそれらと比べて良いと言えるかもしれない。
- 低群では、1-2年、3-4年ともに、入試方法の効果は見られない。  
⇒入試方法は、入学後の学修態度とは関連していない。

### ②モデル2について

- モデル1で高群1-2年で出ていた「AO入試」のプラスの効果が消える。  
⇒AO入試に表れていた効果が、「高校学習時間」や「高校学習態度」に吸収。実際には、入試方法が直接効果をもつのではなく、こうした高校時代の学習習慣や態度が効果をもっている。高群のAO入試は、形の上でそうした生徒を選抜する機能をもつと考えられる。
- 「高校学習時間」や「高校学習態度」の直接的な効果は、高群3-4年や低群でも同様に存在。  
⇒高校時代に学習習慣や態度を確立していた生徒は、入試偏差値が低い大学でも、また、3-4年になっても、よい学修態度を備えている。モデル1でAO入試にプラスの効果が表れていなかったのは、そうした学生をAO入試できちんと選抜できていない証左。



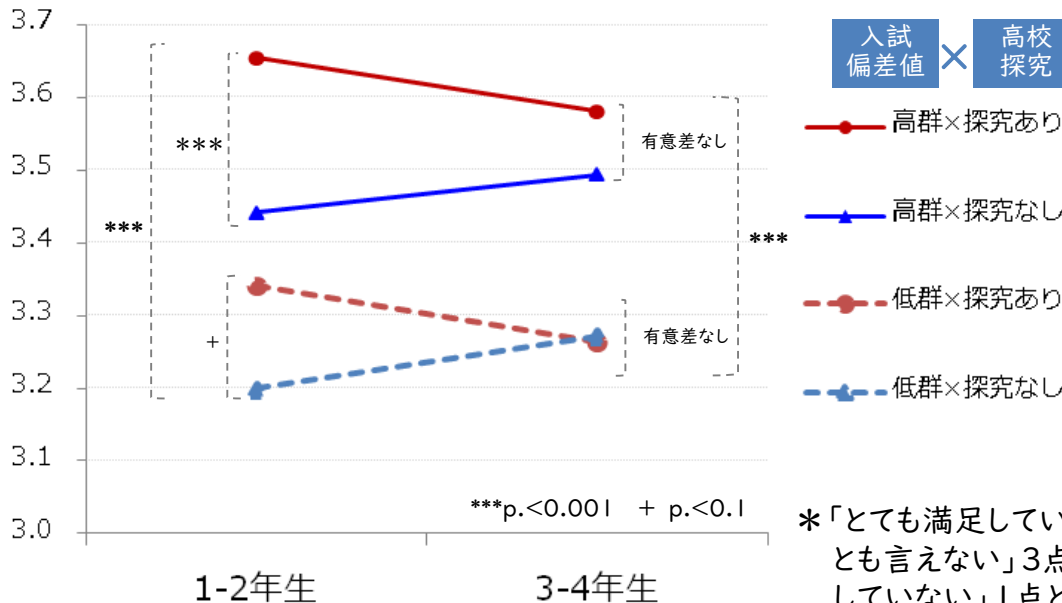
● 図表16: 高校時代の探究活動の有無(入試偏差値別)

Q: 高校時代に、1つのテーマを3か月以上かけて追究する活動をしたか

		入試難易度		合計
		高群 (偏差値55以上)	低群 (偏差値55未満)	
高校時代: 1つのテーマを3か月以上かけて 追究する(探究活動)	あり	14.0	7.4	21.5
	なし	46.7	31.9	78.5
合計		60.7	39.3	100.0

● 図表17: 大学満足度(入試偏差値×高校時代の探究活動別)

Q: 現在通っている大学について、どのくらい満足していますか: 大学生活を総合的に判断して



● 高校時代に探究活動を体験している群は、3-4年で大学満足度が低下する

\* 「とても満足している」5点～「どちらとも言えない」3点～「まったく満足していない」1点とし、平均値を算出